



Hukutana

ふくたな 36号

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター ニュースレター

2009年4月

ナイロビ研究連絡センター活動報告（2009年1月～3月）

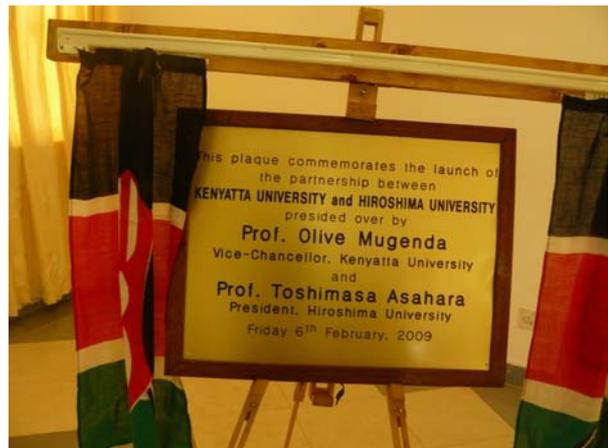
広島大学国際協力研究拠点”KU-HU Collaboration Resource Centre” 開所式参加

日時：2009年2月6日

場所：ケニアッタ大学メインキャンパス

ケニヤッタ大学構内の共同研究棟に広島大学海外拠点が設立された。広島大学は国際協力機構（JICA）のケニア中等理数科教育強化計画プロジェクトの研修員の受入や、客員教授の招聘、共同セミナーの開催など共同研究の実施、大学間交流を進めてきた。2006年9月にはJSPS ナイロビ、広島大学、ケニヤッタ大学による共催で『高等教育機関の国際協力をケニアと日本一』（於 日本大使館）を開催し、その後2007年には大学間協定を締結した。国際協力研究拠点”KU-HU Collaboration Resource Centre”は、これら国際交流の取り組みを更に展開していく目的で設立されたものである。

当日は、ナイロビ大学、ケニヤッタ大学の学生のほか、医療関係のNGOで活躍する職員たちなどを中心に多くの参加者がみられ、約40人の聴衆を集めた。



（主な参加者）

Olive Mugenda ケニアッタ大学学長

浅原利正 広島大学学長

内海成治 お茶の水女子大学教授

嶋田雅暁 長崎大学ケニア拠点長

岩谷滋雄 在ケニア日本大使館全権大使

澤村信英 教育開発国際協力研究センター教授

菊池斉 在ケニア日本大使館広報文化センター長



内閣府アフリカ調査ミッション（東部アフリカ）地域セミナー参加

日時：2009年2月27日

場所：ケニヤッタ国際会議センター

平成20年10月に東京で開催された日本アフリカ科学技術大臣会合での合意に基づき、内閣府の岩橋理彦審議官を団長とする「アフリカ科学技術調査ミッション」が派遣され、ケニアには2月26日に到着。同月27日にケニア側関係者とタンザニア代表団の参加を得て、セミナーが開催された。出席者は約50名。本セミナーでは、内閣府や文部科学省の他、科学技術振興機構、宇宙航空研究開発機構、東京大学、長崎大学等の参加者から講演があり、本会からも長谷川博之地域交流課科学技術ODA担当マネージャが、本会の事業内容に関する発表を行った。

本会東アフリカ同窓会からは、会長のアブドゥルラザック国家科学技術評議会書記長が議長の一人として出席したのをはじめ、オヤワ役員（ジョモケニヤッタ農業技術大学教授）も参加し、日本側代表団とケニア側代表団の交流に積極的な役割を果たした。

28日はミッション参加者が、ケニア中央医学研究所（KEMRI）などナイロビ近辺の研究機関を訪問したが、当センターからは同行せず。3月1日、ミッションは次の訪問国エジプトへ向けて出発した。

また、代表団の一人である町末男文部科学省参与が、以前日本の援助で設置されたナイロビ病院の放射線治療装置見学を希望されたため、当センターが見学の手配を行い、2月28日の訪問が実現した。

東アフリカ JSPS 同窓会・JSPS ナイロビ研究連絡センター共催セミナー”Fostering Research Leaders of Our Time”開催

日時：2009年3月25日

場所：AICAD、カンファレンスセンター

日本学術振興会東アフリカ同窓会（以下、同窓会）とジョモケニヤッタ農工大学との連携により、”Fostering Research Leaders of Our Time”（「現代の研究リーダーを育成する」）と題したセミナーを開催した。セミナーでは、同大教授であり同窓会委員のWalter Oyawaが12時30分から約2時間の発表を担当し、その後フロアとの質疑応答が1時間持たれた。

セミナーの目的は、食糧事情の悪化、環境破壊、エネルギー枯渇、自然災害、感染症など、グローバルかつローカルな研究ニーズに関する理解を促進しつつ、学振事業により実施中の共同研究を紹介して、

アフリカ人研究者が参加可能な共同研究を周知することにあつた。



Prof. Oyawa explaining JSPS programs activities.

セミナーへの参加者は 52 人、おもにジョモケニアッタ農工大学の土木工学部と機械工学部に所属する研究者からなっていた。学振事業に関する関心の高さは顕著であり、申請や選考、受け入れ研究者の探索に関する質問が相次いだ。また、インターネット上に事業に関する情報が開示されているものの、学術における日本－ケニアの紐帯を強化するうえでは、日本での研究経験を実際にもつ研究者が重要な機能を有しており、共同研究の実現を積極的に支援すべきとする意見が多く参加者から示された。

面談等活動報告

○1月22日

JICA ケニア事務所にて、小嶋良輔 JICA ケニア事務所職員からの依頼により、中谷美文 JICA 海外 OJT (On the Job Training) 新入職員、小部宣幸 JICA 海外 OJT 新入職員 JICA 海外 OJT 新入職員を対象に、ケニア牧畜民社会の「生業生態」と「世界認識－ウガンダ牧畜民の事例」について人類学的に講義を行った。

○1月29日

ナイロビ大学アフリカ研究所 (IAS) 訪問。Isacc Nyamongo 所長と面談し、次年度開催予定の国際シンポジウム「持続可能な多文化共生社会にむけてのオルタナティブ・ジャスティスの理念と実践」(ナイロビ大学、京都大学、ケニア人権委員会共催) について協議。

○2月2日

ACC(African Conservation Centre) 訪問。次年度8月開催予定の国際シンポジウム「生物多様性保全会議」(African Conservation Centre(ACC)、ケニア野生動物公社 (KWS)、京都大学、東京大学、UNEP 共催) の打ち合わせに参加。David Western 博士、Jeff Worden 研究員、Charles Musyoki ケニア野生生物公社上級研究員、その他と面談。

○2月19日

駒澤大佐次期ナイロビセンター長とともに高橋嘉行 JICA ケニア事務所所長を表敬訪問。

○2月24日

Miriam Were 第1回野口英世アフリカ賞受賞者、嶋田雅暁長崎大学ナイロビ拠点拠点長、駒澤大佐次期ナイロビセンター長と面談。

○2月25日

駒澤大佐次期ナイロビセンター長とともに NCST (科学技術評議会) の Shaukat Ali Abdulrazak 書記官 (JSPS 東アフリカ同窓会議長)、Edward Opiyo 調査許可担当を表敬訪問。

○3月6日

駒澤大佐次期ナイロビセンター長とともに在ケニア日本大使館岩谷滋雄全権大使を表敬訪問。

○3月6日

第6回 JSPS 東アフリカ同窓会役員会開催。Walter Odhiambo Oyawa ジョモケニアッタ農技大 Civil Engineering 学部チェアマン (東アフリカ同窓会会員)、Hassan Karakacha Were 書記 (マシндеムリロ科学技術大講師)、駒澤大佐次期ナイロビセンター長が参加。次年度活動計画と3月25日開催予定のセミナーに関する打ち合わせをおこなった。

ビジター報告

・今四半期のセンターへの来所者はのべ127名。8名の日本人研究者に対し、ケニア科学技術評議会への調査許可証申請のためのナイロビ研究連絡センターからの推薦書を発行した。

今四半期来所者リスト

天野梓	静岡県立大学国際関係学部学生
石田英実	滋賀県立大学人間看護学部学部長
磯野佳奈	静岡県立大学国際関係学部学生
臼井隆志	慶応大学総合政策学部学生
内海成治	お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター客員教授 (元ナイロビセンター駐在員)
荻原直道	京都大学大学院理学研究科助手
海部陽介	国立科学博物館人類研究部研究員
勝田有紀	静岡県立大学国際関係学部学生
金子聡	長崎大学ケニア拠点教授
菅野直美	JICA 青年海外協力隊員
菊地泰弘	佐賀大学医学部助教
工藤健	長崎大学経済学部・国際健康開発研究科准教授
国松豊	京都大学霊長類研究所助手 (ナイロビセンター元駐在員)
倉田真衣	静岡県立大学国際関係学部学生
黒田一雄	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

湖中真哉	静岡県立大学国際関係学部准教授
駒澤大佐	長崎大学ケニア拠点研究員
佐藤俊太郎	JSPS 総務部主計課監査係
清水克也	JSPS 総務部経理課
清水大輔	日本モンキーセンターリサーチフェロー
曾根咲子	京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科院生
高木文	埼玉大学教養学部学生
高野智	日本モンキーセンターリサーチフェロー
高橋真央	お茶の水女子大学グローバル協力センター講師
辻川寛	東北大学医学部助教（ナイロビセンター元駐在員）
中村香子	京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科特任助手
中村亮	総合地球環境学研究所研究員
長田華子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（日本学術振興会特別研究員）
西尾美也	東京芸術大学大学院院生
長谷川博之	JSPS 地域交流課プロジェクトマネージャー
馬場悠男	国立科学博物人類学部部長
本庄由紀	ナイロビ大学学生
蒔田知佐子	
増田研	長崎大学環境科学部助教授
松田素二	京都大学大学院文学研究科社会学教室教授
松本葉	京都大学大学院文学研究科事務官
三橋知子	ツーリスト
宮本律子	秋田大学教育文化学部教授
目黒紀夫	東京大学大学院農学生命科学研究科院生（日本学術振興会特別研究員）
保本聡子	KWS（ケニア野生動物公社）獣医
山田肖子	名古屋大学国際開発研究科准教授

山根裕子	名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究員
山根裕美	京都大学アジアアフリカ地域研究研究科院生
横谷薫	在ケニア日本大使館経済協力部門研究員
渡辺綾	東京大学文学部学生
渡邊なつき	静岡県立大学国際関係学部学生
Arexander K. Kahi	東アフリカ同窓会議長役員（エガートン大学教授）
Atuya Gerson	ジョモケニアッタ農工大学学部生
Charles Musyoki	ケニア野生生物公社上級研究員
Daniel Kandongor	エガートン大学博士
Emmanuel Nsabiyaremye	ナイロビ大卒業生
Francis Mutiso Mathooko	東アフリカ同窓会議長役員（ジョモケニアッタ農工大教授）
Griffin Masika	ジョモケニアッタ農工大学学部生
Harisson Maganga	ACTS Communication and Publucation Officer
James Omondi	ナイロビ大学講師
Mary Muthoni	ACTS Communication and Publucation Officer
Mordecai O. Ogada	Kenya Wildlife Trust 博士
Tharcise Ukizitambara	Center for Tropical Ecology and Conservation Antioch University New England Center for Tropical Ecology and Conservation 院生
Walter Odhiambo Oyawa	ジョモケニアッタ農技大 Civil Engineering 学部チェアマン（東アフリカ同窓会会員）

お知らせ

ケニア調査許可証取得手続きに関する変更について（2009年4月現在）

2008年12月よりケニアでの調査許可証取得のための申請先が変更されました。

これまでの教育科学技術省（JOGOO HOUSE "B", Harambee Avenue）から NCST（National Council for Science and Technology, UTALII HOUSE, Uhuru Highway）へと担当部署が移動しました。

また、現在、システムの移行期間であるため、申請から許可証取得までにかかる日数がこれまでの1日～2日から2週間前後となりました。調査許可取得をお考えの方は、この点を考慮に入れて調査計画を作成していただきますようお願いいたします。必要申請書類や申請料などに関する変更はありません。

【申請場所と担当者】

- NCST (National Council for Science and Technology) の住所 : UTALII HOUSE, Uhuru Highway ,P.O. Box30623, Nairobi, Kenya.
- Tel : +254-241349 / +254-31057
- Fax : +254-213215
- URL : <http://www.ncst.go.ke/>
- 担当者 : オピヨ氏 (Mr. Opiyo) : 8階 Room No. 806

【申請に必要なもの】

1) 申請書 (コピー5部)

申請者の所属 (日本、ケニアにおける提携機関名も)、調査タイトル、調査期間(最長3年間、短縮されることがある)、調査地(ディストリクト名を記述する。オールディストリクトで許可がおりた例がある)などを明記する。申請用紙 (Form B) は、NCST および NCST ウェブサイトからダウンロードして入手できます。

2) 英文履歴書 (コピー5部)

3) 調査研究計画書 (コピー5部)

A4で1枚程度に、研究のタイトル、目的、期間、調査地域、調査費用、ケニア国内の受け入れ機関などを記入したもの)

4) JSPS ナイロビ研究連絡センターの推薦書 (コピー5部)

推薦書は、急ぎである場合ならば、所属大学・学部・研究科名、肩書き、研究計画書の内容などを英文で知らせていただければ事前に用意可能です。

5) ケニア国内受入機関からのレター(2009年4月新たに追加されました)

6) パスポートのコピー

7) 写真3枚(パスポートサイズ)

8) 申請料

学部生	US\$ 150
大学院生 (修士)	US\$ 350
大学院生 (博士)	US\$ 400
博士号取得者	US\$ 500
団体、機関など	US\$ 1000
民間企業	US\$ 10000
延長	上記の半額

必要書類をそろえて NCST に本人が持参すれば、申請から 2 週間前後で取得できます。

編集・発行者：波佐間逸博（日本学術振興会・ナイロビ研究連絡センター長）

日本学術振興会 ナイロビ研究連絡センター

P. O. Box 14958-00800, Nairobi, KENYA

Phone: +254-20-4442424; Fax: +254-20-4442112

E-mail: jsps1@africaonline.co.ke

ふくたーな…スワヒリ語のことわざ *Millima haikutani, lakini binadamu hukutana*
(山と山は出会わないが、人は出会うものだ)